



人と動物が 幸せに暮らせるまちに



いつもそばにいてくれて、心を癒やしてくれる動物たち。しかし一方で、心無い飼い主によって、行き場をなくしてしまう動物たちもいます。人と動物たちがともに生きていける社会を築いていくにはどうすればよいのでしょうか。市動物愛護センターと協力して、動物愛護の啓発や犬猫の里親探しなどに取り組むボランティア・NPO法人「群馬わんにゃんネットワーク」の皆さんにお話を伺います。

動物と飼い主の出会いを応援

市長 最近はペットブームで犬や猫を飼う人が増えていますが、でも最後まで面倒を見られない人も増えているようです。

飯田 残念ながらそのとおりです。しつけができない、子どもが増えすぎた、いなくなっても捜さないといった飼い主の都合で見捨てられた犬や猫が後を絶ちません。

市長 そうですね。そういった状況から市は、これまでに不妊・去勢手術にかかる費用の助成などで飼い主への支援を行ってきました。活動の拠点となる「動物愛護センター」ができて3年になります。保護した犬や猫の譲渡や返還に取り組み、全国的に見ても素晴らしい成果を上げていると聞きました。とても誇らしいことです。職員はもちろんですが、協力していただいているボランティアの皆さんの熱い思いが結果につながっていると思います。

飯田 ありがとうございます。私たち「群馬わんにゃんネットワーク」は、殺処分される犬や猫を1匹でも減らしたいという思いで平成19年7月に発足しました。

市長 今はどんな活動に取り組んでいるのですか。

遠藤 動物愛護センターで保護されている犬や猫の新しい飼い主を探す「譲渡会」の開催やイベントでの啓発



●飯田有紀子さん

NPO法人「群馬わんにゃんネットワーク」の理事長。市動物愛護推進協議会委員も務める。

活動が中心です。インターネットを利用して里親の募集もしています。

市長 吉田さんは動物愛護センターから犬を迎えたそうですね。

吉田 はい。前からずっと犬を飼いたいと思っていて、皆さんのアドバイスでもっといい子に巡り合えました。それで今度は自分が譲渡のお手伝いをしたいと思ったんです。

市長 内山さんはどうですか？

内山 私は友だちに誘われて見学に来たのがきっかけです。小さいころから動物が好きで、何かできることはないかと思って。

市長 この犬や猫の紹介パネルも手作りなんですか？

遠藤 そうです。見学や譲渡会に来てくれた人に興味を持ってほしくて。何枚も撮った写真の中から一番かわいいものを選んでいきます。

市長 確かに目を引きますね。イメージはとても大事ですよ。「動物愛護センター」という名前だけ聞くと、いかにも事務的な感じがするでしょう？もともと市民に親しまれる場所にしていきたい。4月に施設を拡張したことや、小中学生からマスコットキャラクターを募集したのもそうした考えからです。

飯田 本当に助かっています。これまではスペースがなくて譲渡会や面談も犬と猫で時間を分けていましたが、同時にできるようになって皆さんの譲渡希望者が来ても対応できるようにになりました。



●遠藤めぐみさん

理事を務める。猫を拾って里親探しをしていたところ、NPOの存在を知り活動に加わる。



手作りの猫の紹介パネル。性別や年齢、性格、病歴など細かい情報を載せている

いきたいと思っています。

飼う前にもう一度よく考えて

市長 今までの活動の中で、課題になっているところがありますか。

飯田 犬や猫の譲り受けが増えるのはとてもうれしいですが、「飼い主として最後まで面倒を見られるか」となると難しいですね。

吉田 小さなお子さんを連れてたご家族や高齢のご夫婦など、譲渡会にはいろいろな方が見えます。住居の形態や家族構成、過去の飼育歴など1件ずつメンバーが丁寧に聞き取りをして確認しています。

遠藤 犬や猫の譲渡には、必ず避妊・去勢手術をすること、猫は室内飼いにすることなどを条件にしています。こうした地道な活動が将来的に



●富岡賢治市長

「動物愛護センター」を拠点に人と動物が暮らしやすいまちづくりに取り組んでいる。

施設に収容される動物を大きく減らすことにつながっていくはずですよ。

市長 小学生に施設を見学してもらって、皆さんの活動を実際に見せるのもいいかもしれませんね。かわいところだけでなく、厳しい面も含めて小さいときから「動物を飼うのはこういうことなんだ」と知ることが、命の大切さを学ぶきっかけになると思います。



毎週日曜に譲渡会を開催



希望の犬と散歩してみることもできます

群馬わんにゃんネットワークは毎週日曜日に市動物愛護センターで譲渡会を開催しています。「とても人懐っこくて、いい子ですよ」。譲渡会では、犬や猫たちと直接触れ合うこともできます。飼い主としての心構えや動物の習性、各種手続き、予防接種や不妊・去勢手術に必要な費用なども丁寧に説明します。会場の案内図は、3ページを参照してください。



●吉田智子さん

活動は3年目。NPOを知って活動に参加し、動物愛護センターから犬を譲り受けた。

飯田 市の職員の方は本当に頑張ってくださいます。「もう飼えない」と施設への引き取りを望む飼い主の家を訪問して、しつけの仕方など問題解決の方法と一緒に考える取り組みは全国でも高崎だけではないでしょうか。動物愛護センターには引き取りの数を減らす



●内山留美さん

活動は3年目。動物と新しい飼い主との出会いの場を作りたいと活動に参加。

「入口」を狭めてもらって、私たちは譲渡の数を増やす「出口」の部分を出てきていると感じています。

遠藤 でも現状では、どうしても人手が足りません。ボランティアを増やして譲渡会が土曜でも日曜でも開催できるようにすれば、もっとたくさんの命を守ることができます。

内山 イベントなどでも私たちの活動を発信していきたいですね。

吉田 1匹でも多く幸せになってもいい。それがメンバー全員に通ずる思いです。

飯田 施設で保護されている犬や猫を救うことだけが目的ではありません。私たちの活動をとおして、人も動物も仲良く共生できるまちに少しずつ近づけていきたいです。